



赤ずきん

阪口・丸山

昔、かわいい小さな女の子がいました。

その女の子は**おばあさん**にとっても可愛がられていました。

あるとき**おばあさん**は女の子に**赤いずきん**をあげました。

その頭巾は子供にとってもよく似合っていたので女の子は他のものをかぶろうとしなくなりました。

それでいつも**赤ずきんちゃん**と呼ばれていました。

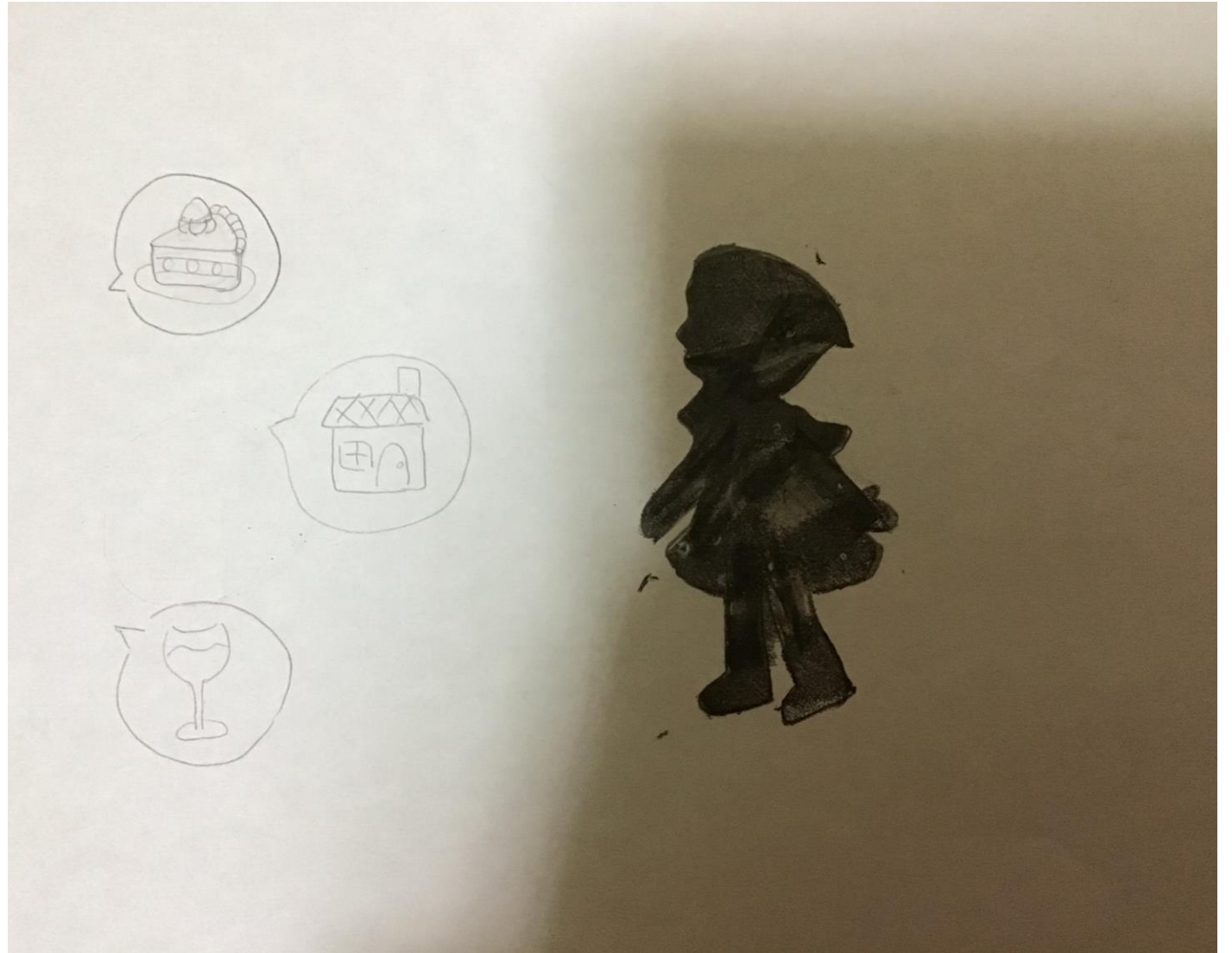


ある日、おかあさんが**赤ずきんちゃん**に
言いました。

「**赤ずきん**、ここにケーキがとワインあ
るわ。**おばあさん**のところへ持って行っ
てちょうだい。道をそれないで行くの
よ。」

「よく気をつけるわ。」

と**赤ずきんちゃん**はすると元気に出発し
ました。



おばあさんの家は、村から離れた森にありました。

赤ずきんちゃん
が森に入っていくと、
オオカミ
に会いました。

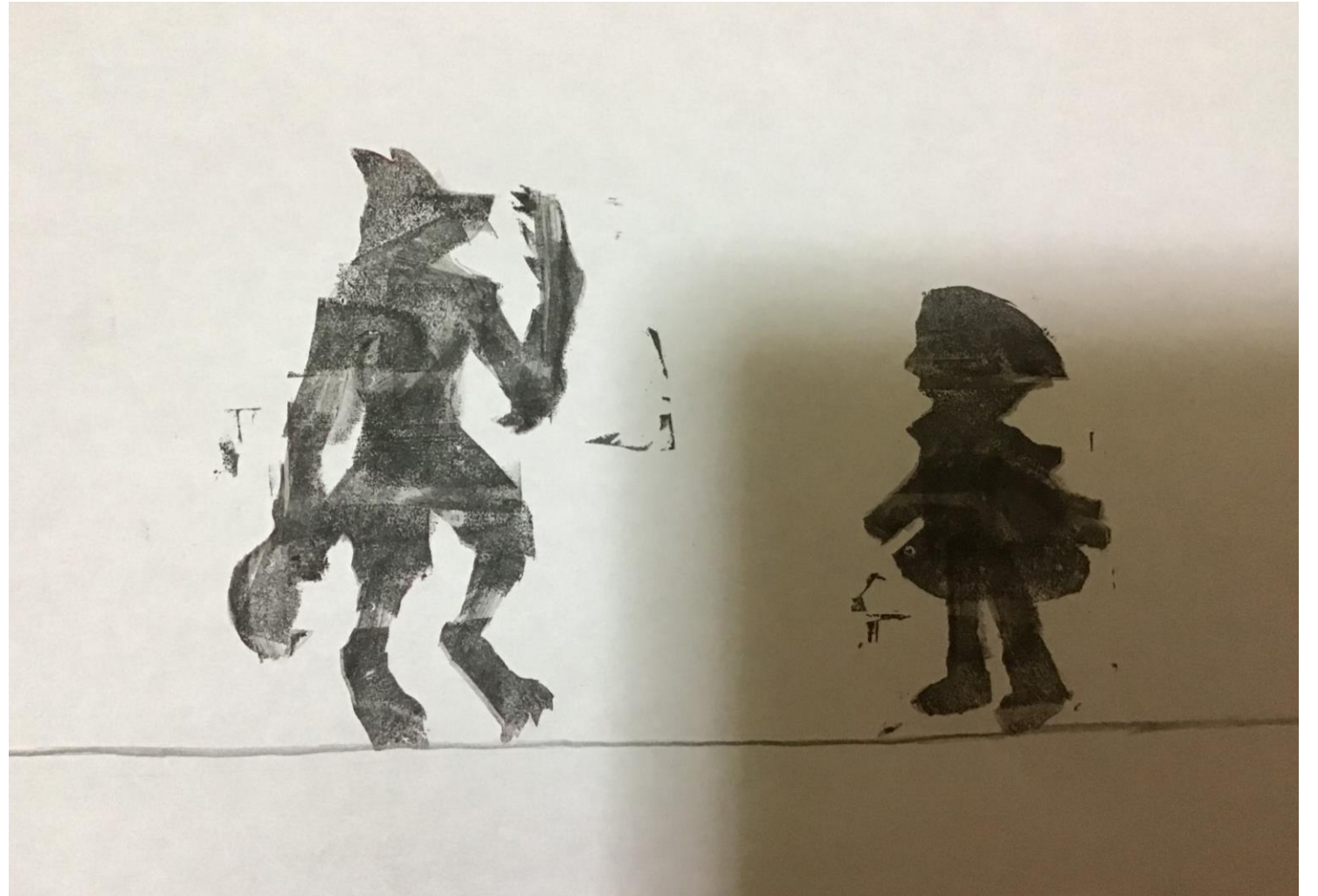
「こんにちは、赤ずきんちゃん。こんなに早くどこへ行くんだい？」

「おばあさんのところよ。」

「赤ずきんちゃん、おばあさんはどこに住んでいるの？」

「森をあと少しいったところ。おばあさんのお家は3本の大きな樫の木の下にあるの。はしばみの木がすぐ下にあるから、きっとわかるわ。」

と赤ずきんちゃんは答えました。



オオカミは考えます。

「優しそうな子だ。

この子なら自分を助けてくれるかもしれない。

だが、自分を助けたら変な噂が立つだろう。」

悩んだオオカミは

「ならば、おばあさんに助けてもらおう。

手当ての間なら近くを通る人もいないかもしれない」

と考えました。

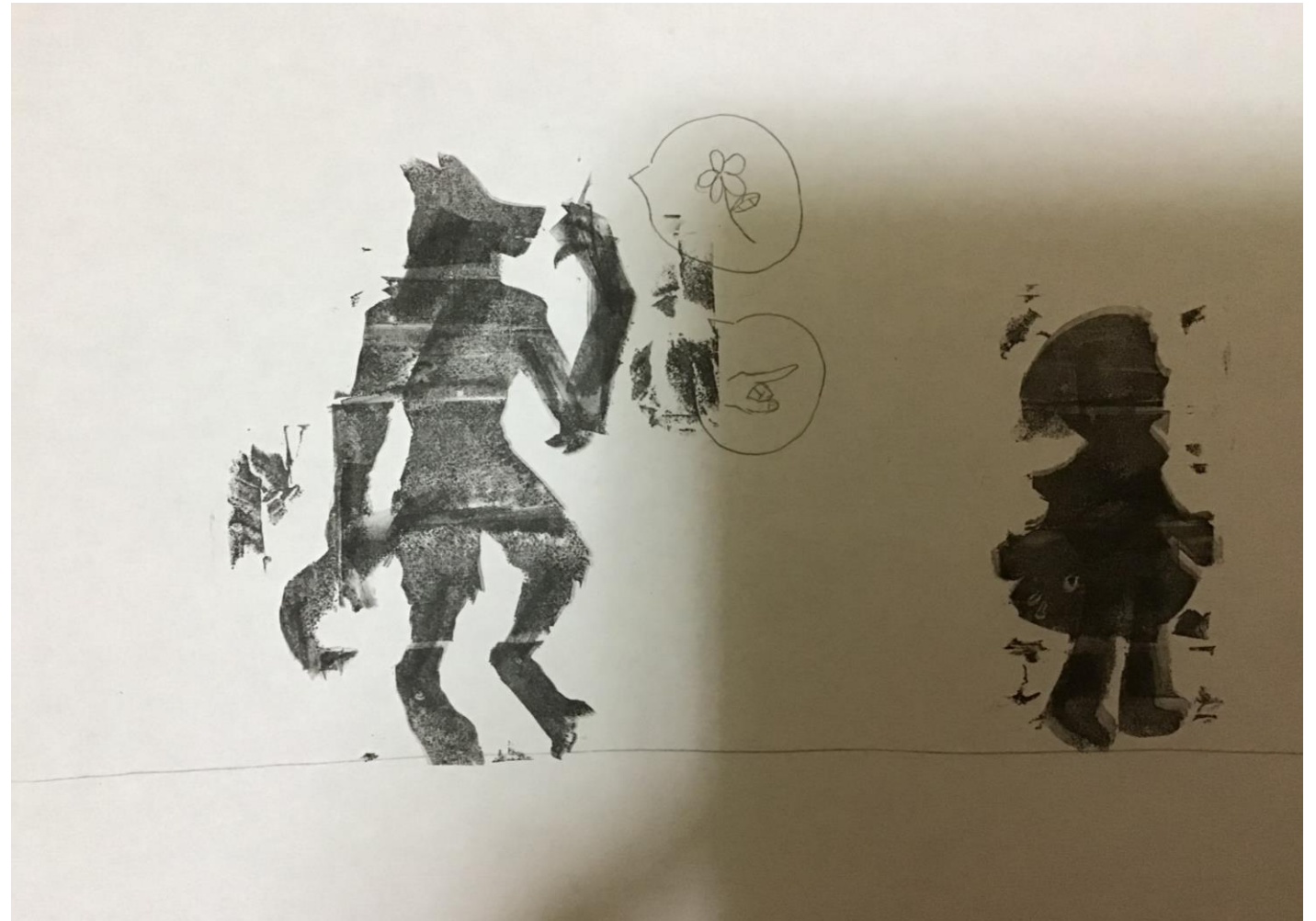
オオカミは怪我していることを気付かれないよう、**赤ずきんちゃん**の後ろを歩いて、言いました。

「**赤ずきんちゃん**、見てごらん。

向こうにきれいな花が咲いていたよ。

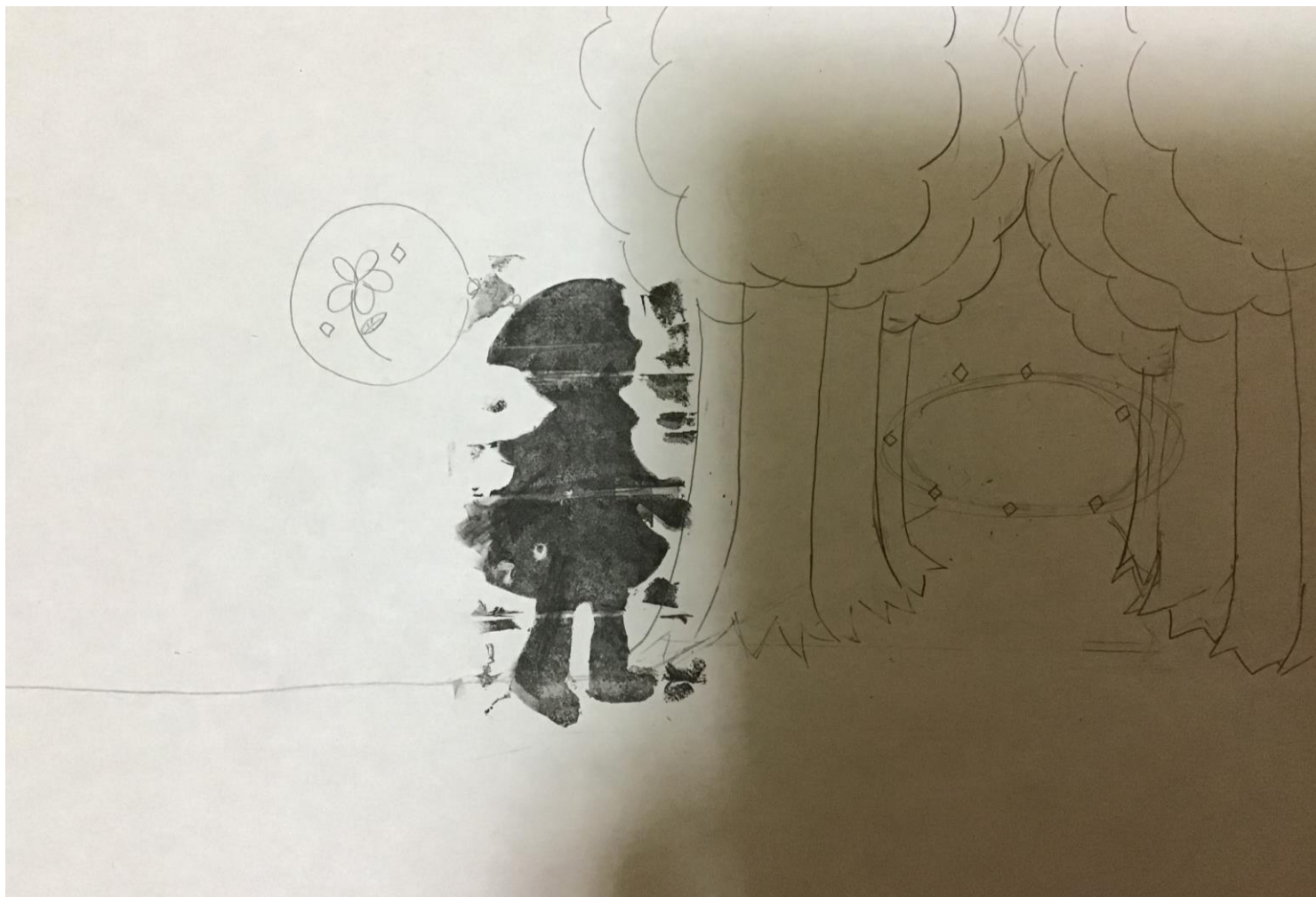
きっとおばあさんにあげたら喜ぶだろう。

花をつんでいかないのかい？」



赤ずきんちゃんは顔をあげました。太陽の光が木の間からあちこちにおどっていて、きれいな花が一面に咲いています。

赤ずきんちゃんは、わあ！ と歓声を上げ、花をさがしに道から森の中へ走って行きました。



その間に**オオカミ**は**おばあさん**の家へ行きました。

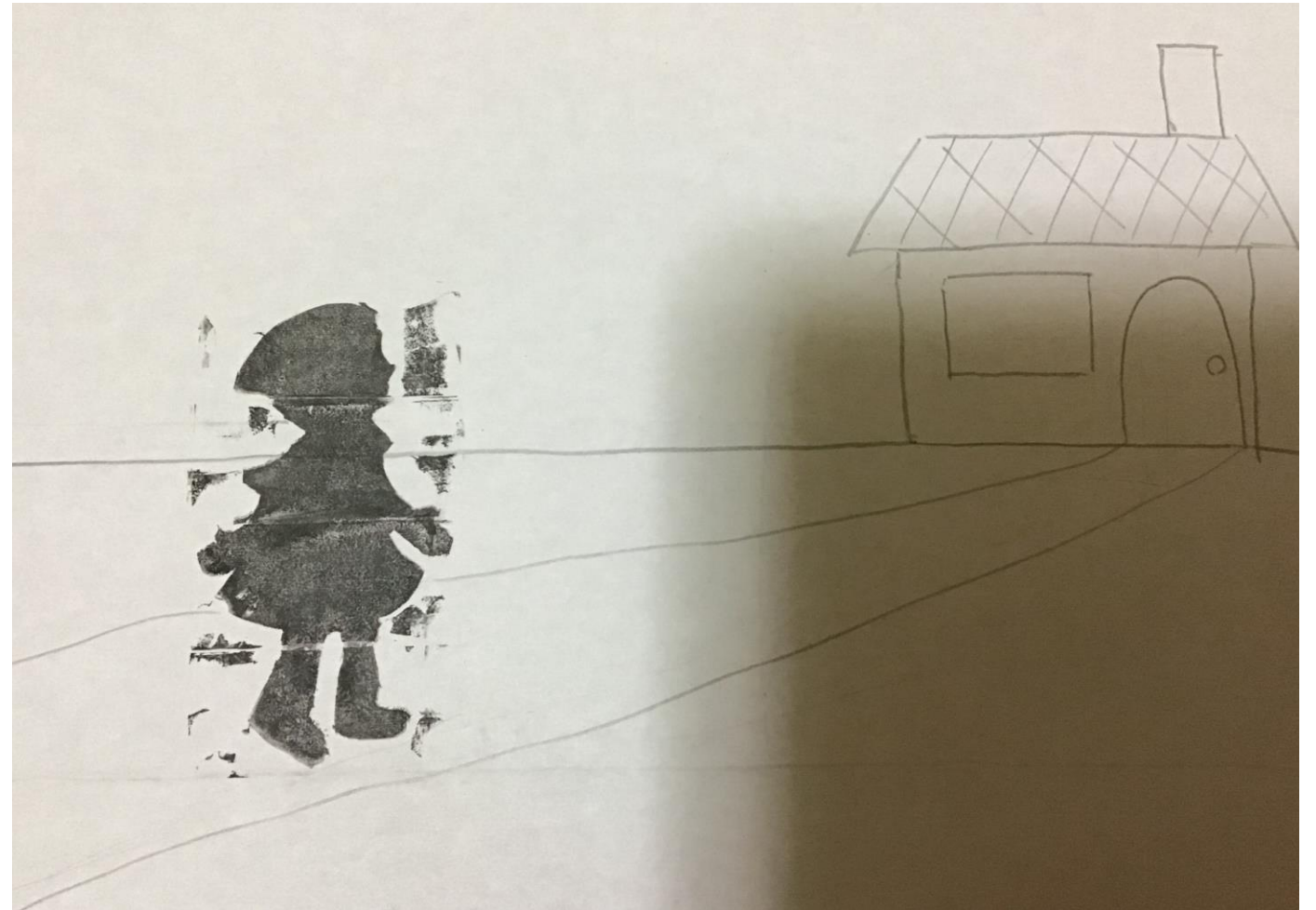
オオカミは戸を開けてもらい、急いで説明すると、**おばあさん**は快く手当てを引き受けてくれました。

それから**おばあさん**は治るまでベッドに寝ておくように言いました。

しかし、**オオカミ**は急いで出ていこうとしました。

赤ずきんちゃんは持てなくなるほどたくさん花を集めて、**おばあさん**の家を目指して歩いていきました。

赤ずきんちゃんは家から話し声が聞こえることに驚き、急いで部屋に入りました。そこで**赤ずきんちゃん**は**オオカミ**と**おばあさん**が言い争っているのを見ました。



「まあ、おばあさん、どうしてオオカミさんがいるの。」

「怪我をしたみたいだから手当てをしているのよ」

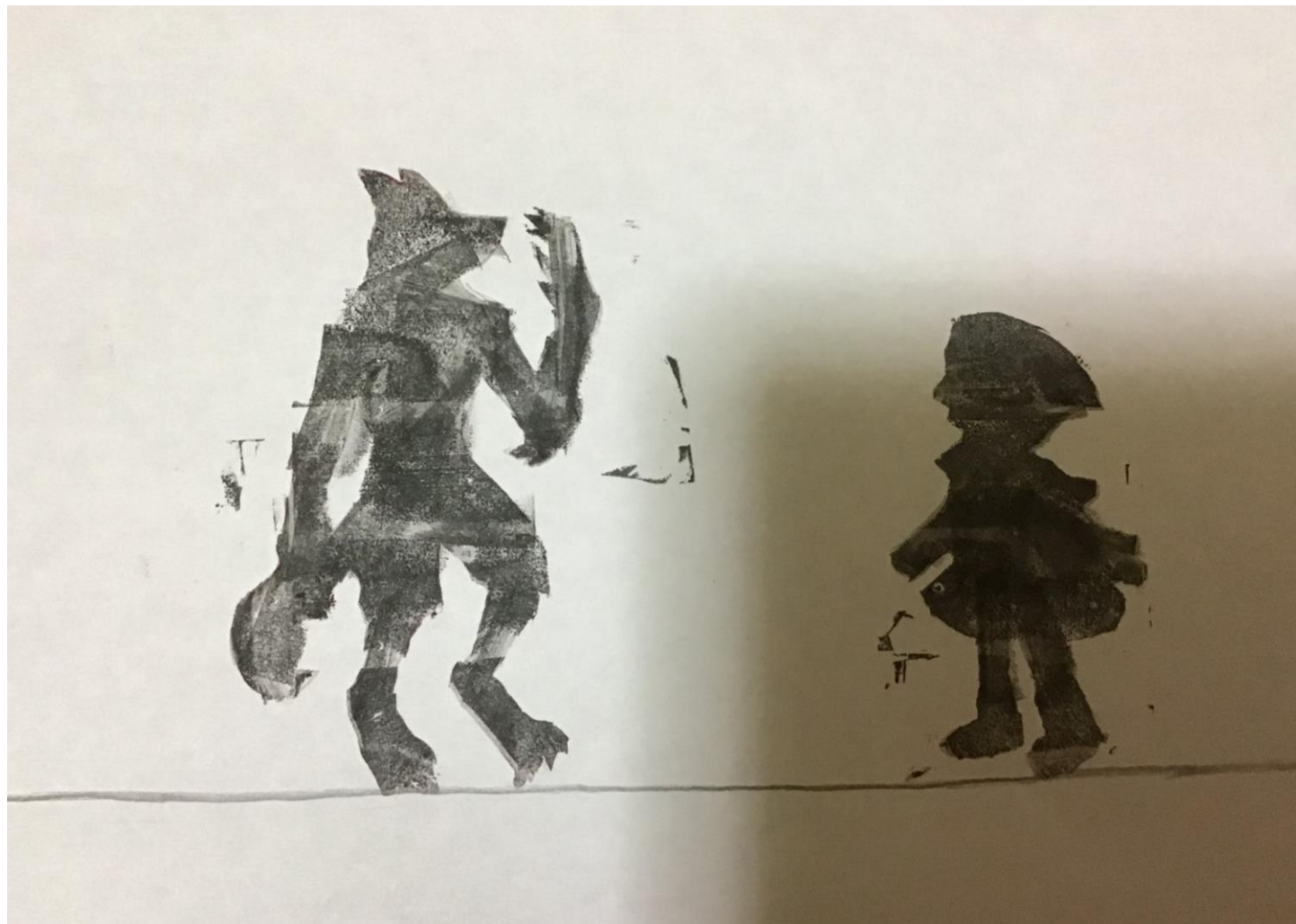
「けど、おばあさん、手当は終わっているように見えるわ。」

「でも、治ったわけじゃないのよ。なのに、すぐ帰るといふのよ」

「オオカミさん、どうしてすぐに帰ろうとするの。」

「自分が長居したら、変な噂が流れて二人に迷惑をかけてしまう。だから、早く帰りたいんだ」

「どんな噂が流れても構わないわ。それより今動いて傷が治らない方が気になるわ」とおばあさんが言い、赤ずきんちゃんも頷きました。

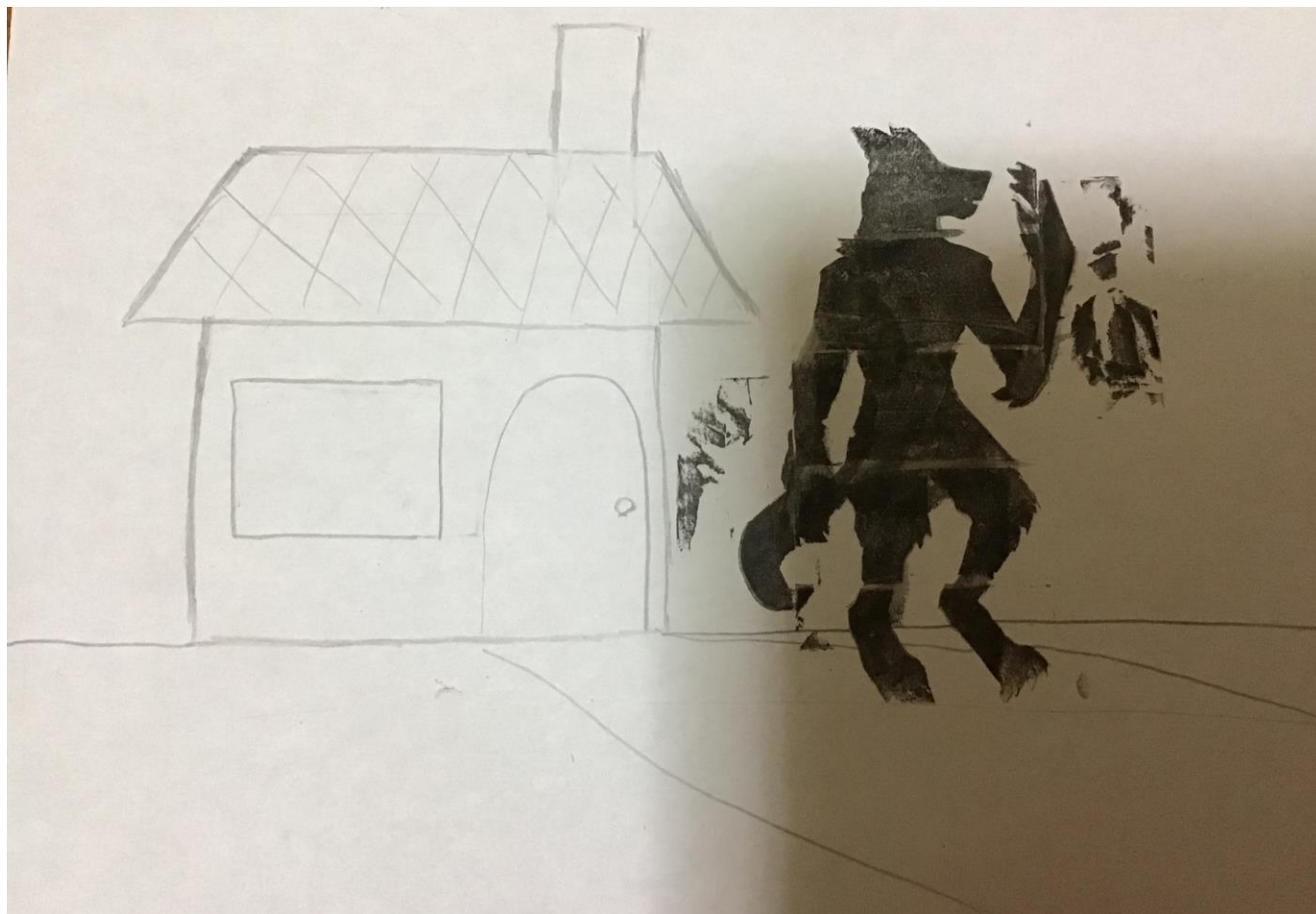


オオカミは二人に**何度も**頼みこまれたので、少し休んでから帰ることになりました。

また、見られてしまった時のために**おばあさん**の**格好**をして寝ていたらいいということになり、眠りました。

そして一時間程経った頃に目を覚まし、**オオカミ**は二人にお礼を言い**おばあさん**の家を出ました。

そのとき、**オオカミ**が家から出てくる所を**陰**から見ている人がいました。**猟師の男**です。



獵師の男は、常々**オオカミ**のことが気に入らないと感じていました。

いつか悪い噂を広めてやろうと考えていたので、**おばあさん**の家から出てきたのをチャンスだと思いました。

獵師の男は、ついでに『**自分がオオカミから二人を助けた話を町に流せば英雄扱いをされるのではないかではないか**』と考えました。

もし**赤ずきんちゃん**が何か言っても

きっと『**子供だし被害者で混乱している**』と思われると考え、町に向かいながら噂を広めて行きました。

そして、噂が流れてxx日……。

「ねえ聞いた?! Oさんのところの息子さんが赤ずきんちゃんのおばあさんを食べようとしたって噂……………」

「あ、それ私も聞いた! ……………」

こうして**猟師の男**の思惑通りに噂は広まりましたが、最後には嘘だとバレてしまいました。

噂は噂、真実とは限りません。
皆さんも噂ばかり信じないようにしましょう。



お わ り



お借りしたものの

SHILHOUETTE DESIGN

photoAC



書名：「赤ずきん」



著者名・発行者名：丸山、阪口



発行年月：2020年7月27日